



「電気のみるさと」

平成
22
年度

フォトコンテスト



審査結果発表

「電気のみるさと」フォトコンテストの優秀作品が決まりました

当センターとして初めてのフォトコンテストを開催しました。平成22年10月1日から平成23年3月31日までの半年間で、全国各地から61名、176点の力作を頂きました。謹んで御礼を申し上げます。

その力作の中から、厳正な審査を経て、最優秀賞1点、優秀賞2点を選定いたしました。審査に当たりましては、電源地域で暮らす皆様の日常生活や、皆様が誇りに思う景色など、「電気のみるさと」と言うべき発電所のある地域の素晴らしさを再認識できる作品、そして、地域の活性化に繋がるとされる作品を重視いたしました。

今回のフォトコンテストをきっかけに、皆様が「電気のみるさと」に更なる思いを寄せていただけることを願って止みません。



「浜辺のデッドヒート」

杉本 昌広さん

撮影地域：静岡県牧之原市

砂を蹴って疾走する馬の姿と騎手の鞭を振り上げたときの姿に緊張感があり躍動感を伴って描かれている。先頭を走る白い馬に当たる強い光がアクセントとなって画面を引き締めている。浜辺の少ない観客と白い船の浮かぶ青い海の背景により、のどかさが高まり馬の競う姿に対比して心地よい緊迫感を高めている。光の廻りも良く「写真は光画である」ということを思い出させてくれる一枚である。



「勇壮牛鬼」

杉森 斉さん

撮影地域：愛媛県伊方町

若い男女が牛鬼の飾りを担いで浜から元気に駆け上がってくる姿に、温かく迎える長老がタイミングよく捉えられている。男女の楽しそうな表情を的確に捉えたことが、この作品の決め手であり、特色あるむら祭の一コマである。背後の小さな入り江は、小さなお神輿に似合った情景となっている。



「ダム湖の印象」

小崎 敬司さん

撮影地域：神奈川県山北町

逆光に輝く桜の花と芽吹いたばかりの新緑が湖面をバックに美しく輝いている。単調になりがちな湖面には山々の映りこみを取り入れて変化をつけている。画面下の2本の新緑の木は影を含んでの扱いが適切であり、画面全体を引き締めている。逆光による強いコントラストを適切な露出値により抑えた撮影テクニックは見事である。



講評

電気のあるさとは風光明媚なところがあり、応募作品には美しい風景写真が多く見られた。人を扱ったものでは、住む人々の生活や祭り行事などを通して人々の交流の姿が描かれていた。それらの作品からは旅情を誘われるものが多く、いずれも都会に住む人々には魅力的なものであった。

応募作品には優れた作品が多く見られたが最終審査を前に21点に絞られた。最終的には地域の祭りでのスナップ写真と、清涼感のある美しい風景写真が選ばれた。

惜しくも選外になった作品には発電所の建物と風景との不調和感が見られたり、登場人物とのなじみ感の弱いものが見られた。今後は地域の中にとけこんだ発電所のある風景や、電気のあるさとにおける人々の生活やその地域の風物詩等の場面を期待したい。更に風景写真では季節や時間を考慮して、定めた撮影ポイントが最高に輝いたものを期待する。



●●●●●●●●●● 審査委員長 森村 進さん

東京都出身。日本大学卒。カメラメーカー勤務を経てフリーになる。各地の写真愛好家の指導に当たるいっぽう風景写真をテーマにした作家活動を積極的に行っている。

国内での写真展「花火曼荼羅」(ニコンサロン)、「大空と大地のコンチエルト」(ニコンサロン)をはじめ「日本の花火」をニューヨーク、チューリッヒ、北京で開催。

著書は「35ミリ一眼レフカメラ塾」「デジタル一眼レフの極意」(学習研究社刊)「ネイチャーフォト自由自在」(毎日新聞社刊)など多数。日本写真家協会(JPS)会員。